

平成27年度 第4回豊田市商業振興委員会会議録

【日 時】 平成27年9月28日 午後2時00分～4時00分

【場 所】 豊田市役所 南庁舎5階 南53会議室

【出席者】 〈委員〉

尾碕 眞 [愛知学院大学商学部商学科教授 博士]
服部 正雄 [元トヨタ生活協同組合 特別顧問]
浅井 良隆 [コンサルティングオフィス アット・ドリーム]
大橋 宏 [豊田信用金庫 部長 中小企業診断士]
澤田 恵美子 [豊田市消費者グループ連絡会会長]
杉田 雅子 [株式会社 杉田組 ブルーベリー事業部取締役]

〈事務局〉

原田 裕保 [豊田市産業部長]
寺澤 好之 [豊田市産業部副部長]
三浦 浩 [豊田市商業観光課長]
長江 洋一 [豊田市商業観光課副主幹]
鈴木 啓介 [豊田市商業観光課担当長]
寫 和典 [豊田市商業観光課主査]
成瀬 愛 [豊田市商業観光課主事]

【欠席者】 松永 郁也 [豊田商工会議所 常議員]
河原 郁子 [とよた下町おかみさん会 平成24年度会長]

【傍聴者】 なし

【次 第】

開 会

- 1 部長あいさつ
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
- 3 委員長あいさつ
- 4 報告事項
第8次総合計画に向けた豊田市の商業活性化の考え方について
- 5 その他
3月商業振興委員会日程調整について
- 6 連絡事項
平成27年度 商業振興委員会開催予定（案）

【会議録（要約）】

- 1 部長あいさつ
産業部原田部長よりあいさつ
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
事務局より説明
- 3 委員長あいさつ

尾崎委員長よりあいさつ

4 報告事項

第8次総合計画に向けた豊田市の商業活性化の考え方について

【主な質疑応答】

委員

現在の豊田市の定住施策を踏まえて商業施策と連動させていくべき。
子育て世代が豊田市に定住しない理由の一つに商業的な原因があるかもしれないということか。

事務局

現在、分析中。

委員

消費の市外流出をある程度やむを得ないとしていくのか議論が必要。

委員

市外流出を止めようとするならば、岡崎のイオンモールと同程度のものが必要。
「大型店舗」という表現は、イメージが固定化されてしまう。

委員

日用品や病院などが近くにあれば、日常生活で不便がない。しかし、特別な買い物は、市外でしたいと思うのは仕方がないのでは。

委員

10年後の少子高齢化社会のことを考えると、買い物に行きやすい店が欠かせない。最寄品の場合は特にそう。
定住の問題は、原因を見極めて商業施策と連動させるべき。
買回品の市外流出はやむを得ないことなので、最寄品をいかに市内で買ってもらうかが重要なのでは。

委員

買い物の魅力が高まり、消費者の満足度が上がればよいのであれば、小売吸引力の数字は問題ではないのでは。小売吸引力の目標値があるのであれば、また論点が違うが。
周辺の市に大きな変化がない中で、豊田市の小売吸引力は毎年減少しているのは、店舗の魅力が減っているということ。大型施設を作ると万事うまくいくかというところではない。

事務局

商業側として、どの程度の施設まで許容していくか等を協議しないと、土地利用の方向性が決まらない。
拠点地域核に、商業施設を容認していくかどうかについて、意見をいただきたい。
豊田市の人口動向について、30代の市外流出の原因は、宅地供給がないからだと考えている。

小売吸引力の明確な目標値はないが、豊橋、岡崎よりも少ないため、豊田市としては高めたいと考えている。

委員

区画整理を進めていこうとしている地域が、宅地開発される可能性が高いとすると、10年後の人口の年齢構成を予測し、中小店舗への影響、日常生活の利便性について分析できるのでは。

事務局

区画整理は土橋、寺部、四郷、浄水、上豊田、御幸・前田など、順次行っていく予定。現状について、次回の委員会で示す。

事務局

豊田市は、売場面積が他市に比べて少ない。もう少しあってもいいのでは。その中で、どの程度許容できるのか協議が必要。

事務局

本日の意見を踏まえて、次回の委員会に向けて協議をおこなう。

5 その他

3月商業振興委員会日程調整については、3月14日に変更する。